

ジオパーク活動の状況

日本ジオパーク委員会事務局

渡辺真人

現在、ジオパークのユネスコ正式プログラム化に関する議論が、ユネスコ執行委員会の決議に基づいて設置されたジオパークワーキンググループで進行中である。国際地質科学連合（IUGS）の協力の下で進められているユネスコのプログラム、

地質科学国際研究計画（IGCP）を改組し、科学研究とジオパークの両方を含む **International Geoscience and Geopark Program** とする方向で議論が進んでいる。IUGS は引き続きユネスコの IGGP プログラムに協力し、また世界ジオパークネットワーク（GGN）は法人格を取得してユネスコと協力関係を結ぶ予定である。この方針に基づくワーキンググループで作成されたユネスコジオパークガイドライン原案、GGN による法人化後の世界ジオパークネットワーク規約の原案が関係者の間で回覧されている。前者は秋のユネスコ執行委員会での承認をめざしており、後者は 9 月 19 日からカナダストーンハンマージオパークで開催される GGN 大会での承認をめざしている。

国内では、上記ガイドライン案・規約案の和訳が日本ジオパークネットワーク（JGN）により進められており、JGN と JGC メンバーで今後議論を進めてワーキンググループ、GGN に意見を提出することが考えられている。

こうした動きを受けて、インドネシア、ベトナム、タイなど東南アジアにおけるジオパーク設立に向けた政府・地方自治体・研究機関の熱意が高まっており、日本からの知的支援が期待されている。発展途上国でのジオパーク設立に向けたキャパシティビルディングを推進することは、ユネスコジオパークガイドライン案にも明記されており、日本のジオパークコミュニティとしてどういう協力が可能か今後検討する必要がある。

以上